

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 5 月 22 日 (2014.5.22)

【公表番号】特表 2012-523530 (P2012-523530A)

【公表日】平成 24 年 10 月 4 日 (2012.10.4)

【年通号数】公開・登録公報 2012-040

【出願番号】特願 2012-504796 (P2012-504796)

【国際特許分類】

F 1 6 B 4/00 (2006.01)

F 1 6 B 19/00 (2006.01)

C 0 8 G 61/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 B 4/00 L

F 1 6 B 19/00 Z

C 0 8 G 61/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 4 月 1 日 (2014.4.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

締結方法であって、

a) それぞれが空洞に通じる開口を表面に有する、第 1 のワークピース及び第 2 のワークピースを提供する工程であって、前記空洞は前記開口よりも幅が広く、

b) 前記空洞及び前記開口に締結具を、その長手方向軸が前記第 1 のワークピースの空洞から前記第 2 のワークピースの空洞まで前記開口を介して延在するように挿入する工程であって、前記締結具が配向形状記憶ポリマーを有し、

c) 前記締結具が横方向に膨張して前記ワークピースの前記空洞と係合し、また前記第 1 のワークピースと前記第 2 のワークピースを互いに引寄せるように前記長手方向軸に沿って縮小するように、前記締結具を加熱する工程と、を含む締結方法。

【請求項 2】

その中に貫通孔を有する 1 つ以上の追加のワークピースを更に含み、前記追加のワークピースが、前記第 1 のワークピースと第 2 のワークピースとの間に挿入される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記配向形状記憶ポリマーが、架橋熱硬化性ポリマー又は結晶質熱可塑性ポリマーである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記配向形状記憶ポリマーが、0 で少なくとも 90 MPa の弾性率、及び 80 で少なくとも 0.5 MPa の弾性率を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記締結具の長さが、前記第 1 のワークピースの空洞の深さよりも長く、前記第 1 及び第 2 のワークピースの空洞の組み合された深さ以下である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記空洞のそれぞれが、前記ワークピースの表面上の前記開口と、遠位盲端と、を有す

る、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記空洞の前記遠位盲端の幅が、前記開口での半径よりも大きい、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記締結具が、その中に埋め込まれた抵抗型加熱要素を更に含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記締結具が、誘導加熱によって加熱される伝導スリーブを更に含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の締結方法によって締結するための前記第 1 のワークピースと、前記第 2 のワークピースと、前記第 1 のワークピースの空洞及び前記第 2 のワークピースの空洞に固定的に挿入され、かつそれらに取り付けられる前記配向形状記憶ポリマーを有する前記締結具と、を有する締結システム。

【請求項 11】

請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の締結方法により、アクセス不可能な形状記憶ポリマーを有する締結具によってブラインドジョイント形式で締結された前記第 1 のワークピースと前記第 2 のワークピースとを含む、組立品。